



● 骨髄ドナー助成制度の導入が進む

自治体のドナー助成制度は、骨髄または末梢血幹細胞を提供したドナーの方とその勤務先に対し、助成金を給付するものです。骨髄ドナーになった場合、検査や採取のために7～10日ほどの通院・入院が必要となり、休業するドナーの経済的負担や勤務先の理解が得られないなどのため提供を諦める場合も多いと言われています。

ドナー助成制度はそのような場合の後押しとして考えられた仕組みで、県内では、青森県骨髄ドナー登録推進会代表の佐藤孝治さんが全市町村を訪問して導入を依頼するなどして普及活動を行っています。

現在、平川市、弘前市、大鰐町、中泊町、佐井村、板柳町、三沢市が助成制度を導入しており、4月からは県でも「助成制度を行う市町村に補助する制度」をスタートさせ、市町村の助成制度及び企業等のドナー休暇制度の導入を促すこととしています。

なお、(公財)日本骨髄バンクによると、3月末で全国で454市区町村が制度を導入し、自治体に補助を行っている都道府県は19とのことでした。



県骨髄ドナー登録推進会では、ショッピングモールなどの移動献血会場で、献血と同時に行える骨髄ドナー登録の説明と受付を行っています。

説明員のボランティアも募集していますので、関心のある方は佐藤代表までお問い合わせください。(電話:090-5832-3531)



● 第25回県民公開講座 骨髄移植を知らう が開催

11月17日(日)、青森公立大学で開催されました。雨まじりのあいにくの天候でした約260名が集まってくださいました。



今回も開会前には、4つの疾患ごとの血液疾患情報提供会を開催。

そして、第一部は骨髄移植とドナー登録の概要を知っていただくための講座。国立病院機構弘前病院の山口公平先生からは骨髄移植について、青森県骨髄ドナー登録推進会の佐藤孝治代表からはドナー登録の現状についてご説明いただきました。

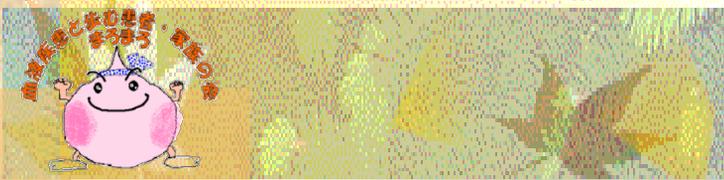


第二部では、「日本で初めての非血縁者間骨髄移植」と題して、初めて骨髄ドナーとなった田中さんと初めて移植を受けた橋本さんが、同じステージに登場して語っていただきました。(もちろん、これは唯一の特殊な例で、通常、誰が誰に骨髄を提供したかは、わからないように保護されています。)

お話を伺っているうちに、骨髄バンクを通じた移植の歴史の第一歩に立ち会っているような感覚を覚えました。

今回も、青森山田中学高等学校吹奏楽部の皆さんの演奏がとても素敵でした。参加して下さった吹奏楽部の皆さんの中には、「20歳になったら登録を考えたい。」との感想を書いてくれた方も。高橋先生をはじめ吹奏楽部の皆さん、ありがとうございました。





応援してます 池江さん

2月、日本競泳女子のエース、池江璃花子選手が白血病であることを公表し、日本中に衝撃が走った。「来年に迫った東京オリンピックの国民期待の星に、運命はこのようなことをするのか」と思った。自分と同じく血液がんであることで、その置かれている状況に共感を覚えながらも、なんて理不尽なことかと思った。



彼女を応援する声は一気に高まり、(公財)日本骨髄バンクへの問い合わせも急増したという。事実、ショッピングモールで骨髄ドナーの登録会を行ったところ、いつもは1日1~2名がやっとの会場なのに、快く説明を聞いてくれ、2桁に届くほどの方がドナー登録をしてくださった。やはり著名人の発信力はすざましい。(語弊はあるけれど)関心が高まることはありがたい。

一方で、その病状や治療法などを追いかけるマスコミ報道と、「がんばれ」「みんなで応援しよう」という声が過熱するSNSには少し違和感を覚えた。

私が通院する青森県立中央病院にも、県内、国内のたくさんの病院にも、今、血液がんと闘っている数多くの池江璃花子さんたちがいる。まったく有名人ではないけれども、かけがえのない家族であったり、職場や地域の一員であったりする普通の人たち。私もその一人として悪性リンパ腫の告知を受け、動揺と混乱で現実を受け止めきれず、失望と不安の夜を越え、それでも生きたいと願い、たくさんの支えを貰いながら病と向き合った。

たいへんな思いをしながら病と闘っている池江選手には、応援しながらも、静かに見守っていたい。そして今、不安の夜を過ごしている普通の人たちにも「絶望しないで」と伝え、みんなで応援していたい。私たち普通の人たちにとっても告知は、同じく全国に衝撃が走るほどのショックだと知っているから。(やまもと)

● まろまるクリスマス会と新年会 開催しました

12月22日(土)にクリスマス会を行いました。サンタクロースやトナカイに扮した会員が県立中央病院8階西病棟の病室を訪問して手作りの記念品をプレゼント。ご協力いただいた皆さま、たいへんありがとうございました。



(挨拶する南先生)

1月26日(土)には新年会を行いました。フラダンス教室スタジオ・フラ・オ・アカデミーの皆さんと、南内科循環器科医院の南先生もご参加くださいました。

当日は参加者の近況報告に始まり、普段はなかなかお会いできない皆さんとのおしゃべりに夢中の2時間でした。

また、スタジオ・フラ・オ・アカデミーの皆さんには、恒例となった新年プチ・フラショーのお披露目をしていただきました。



まろまろ会員 「人に歴史あり」

— 私たちは患者として知り合った仲間ですが、それ以前のその人を知りません。ここでは「病気以前の私」を教えてください。—



第1回は、いつもニコニコしながら巨体でゆらりゆらりと歩く、まろまろの「ジャイアン」こと成田昭一さんの登場です。

成田さんは、昭和14年神奈川県横浜市生まれで、6歳の頃に(旧)木造町に移ったと言いますから、令和元年にはめでたく傘寿！ 今日愛車のクラウンを颯爽と駆って骨髄ドナー登録会に向かう姿は、とても大病を経験した人とは思えません。

それもそのはず、成田さんはJAFオフィシャルライセンスの持ち主で、公認カーレースの審査委員長の資格を持つ、レースドライバーなのです。

若い頃は、モータースポーツとラジコン飛行機製作・フライトに明け暮れていたと言いますから、西津軽郡のかなりのプレイボーイだったに違いありません。



25歳の頃からは(株)ニッサンのチームに所属し、日本アルペンラリー(4日間で2千キロを走破)に5回出場し、優勝を含む3回入賞と好成績を挙げ、モータースポーツ誌などにも掲載された知る人ぞ知る名ドライバーでした。



その後、(株)三協自動車(青森観光バスの前身)に移るのですが、白血病を発症したのは、整備管理者を務めていた58歳の頃。

約半年の入院生活を余儀なくされますが、化学療法が効を奏して社会復帰を果たし、現在は日本骨髄バンクのボランティア説明員、まろまろの副代表として精力的に活動しています。



1982公開「海峡」の撮影にドライバーとして同行。森繁久彌さん、高倉健さんとティータイムの成田さん。(まだ「ジャイアン」体ではありませんでした。)



ロコミ情報

「はたらく細胞」はご存知ですか？
コミック誌に連載され、昨年テレビアニメ化もされた「細胞の擬人化マンガ」です。

個性的なキャラクターで表された細胞たちが、私たちの体の中で起きる「事件」や「戦い」を舞台に、一生懸命働きまわる様子が描かれています。

なかなか面白くて、細胞や細菌などの理解の助けになりましたよ。

● まろまるからのいろいろなお知らせ

骨髄バンク支援

第10回 あおもりチャリティー フラショー

- 感謝と祈りを込めて -

日時: 令和元年6月30日(日) 13:30~

場所: リンクモア平安閣市民ホール(青森市民ホール)

主催: 青森フラ協会

- ・チャリティー・フラ、第10回目の記念ステージです。
- ・収益の一部は骨髄バンク支援団体への寄付に充てられており、まろまるも支援をいただいています。
- ・当日、受付などの運営の手伝いをしますので、参加できる方は 090-9634-6703 (山本)までご連絡ください。



開催予定

● 第26回県民公開講座 ~骨髄移植を知ろう~

日時: 令和元年7月27日(土)

場所: 八戸総合福祉会館 - はちふくプラザねじょう -
(八戸市根城八丁目8-155)

上記の会場で開催準備中です。
詳細が決まりましたらお知らせします。
ご参加できるよう日程の調整をお願いします。

お茶会に参加しませんか

毎月**第4土曜日**に茶話会を開いています。
会員でない方も大歓迎です。

◇開催日
毎月第4土曜日
午後2時~4時

◇場 所
県立中央病院
8階病棟食堂



◇ ご寄付いただきました

小野 サツエ 様
公開講座参加医師有志 様

誠にありがとうございました。



骨髄バンク情報 (H31年3月末現在)

	全 国	青森県
患者登録者数	1,327人	7人
ドナー登録者数	509,263人	9,420人
対象人口千人あたり	8.97人	16.76人(7位)

- 資料: (財)骨髄移植推進財団 -

血液疾患と歩む患者・家族の会 まろまる

<事務局連絡先> 青森県立中央病院 血液内科 外来

TEL 017-726-8141 FAX 017-726-8083

〒030-8553 青森県青森市東道道2-1-1

県病HP <http://aomori-kenbyo.jp/shinryo/ga/ketsueki>

facebook まろまる青森

